

---

# 緋弾のエリア～神殺し伝説～

珍獣

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

緋弾のアリア〜神殺し伝説〜

### 【Nコード】

N1430Y

### 【作者名】

珍獣

### 【あらすじ】

世界でもトップクラスの特特殊部隊、米軍・第1特殊部隊デルタ作戦分遣隊、通称デルタフォースに14歳で入隊した米軍少佐の毒島ぶすしま金助きんすけ。

そんな金助は、更に諜報を得意とするSランクの凄腕武偵でもあった。

軍の上司でもある父に勧められて4月から従兄の住む日本の武偵高に転校することになった金助。

だが、日本で出会った仮面を付けた謎の男に渡された刀『神殺し』

を手にしたことで、色金を巡る争いに巻き込まれていく……!!

## プロローグ〈再会〉（前書き）

先に言っておきますが、私には文才というものはありません!!  
ひどいことになってるかもしれないませんが、温かい目で読んでいた  
だけたら幸いです。

## プロローグ〜再会〜

武偵。それは日々凶悪化する犯罪に対抗するために作られた国家資格で、武装探偵の略称である。

武偵は武装を許可されて、武偵法の許す範囲内においてありとあらゆる仕事を請け負う、いわゆる便利屋である。

レインボーブリッジ南方に浮かぶ南北およそ2キロメートル・東西500メートルの人工浮島、通称学園島。

元は空港滑走路として使われる予定だったこの島に、武偵の教育機関である東京武偵高は存在する。

その武偵高の施設の周りを少年は歩いていて、若干短めの黒髪に、それなりに整った顔立ちで、185センチはあろう長身で、武偵高の制服を着ている。

少年――毒島<sup>ぶすじま</sup> 金助<sup>きんすけ</sup>は、教務科で転校の最終手続きを終え、敷地内を散歩していた。

金助は、米陸軍特殊部隊のデルタフォースの最年少隊員であり、階級は少佐だ。

なぜそんな金助が東京武偵高にいるのかというと、父親であり、尚且つデルタフォースの司令官である毒島<sup>ぶすじま</sup> 金正<sup>かねただ</sup>に「日本の優秀な武偵の中で、自分を磨くように」という指示を受けたのと、従兄がこの学校にいるからだ。

金助は周りの施設を見回した。

『アメリカの基地程では無いが、なかなかの施設が揃ってるな。』

金助は更に歩を進め、気がつけば第2グラウンドの横に来ていた。

『ここがグラウンドか。広さはまあまあかな？』

そう言いながら歩きながらグラウンドの広さを確認していると、グ

ラウンドの入口からかなりのスピードで何かが入っていくのが見え  
た。

『自転車・・・なんであんなに速度だしてるんだ？駐輪場はあっち  
じゃなかったはずだし・・・』

自転車の行き先を考えていると、後ろから少女がパラグライダーで  
低空飛行しながら追いかけて行った。

『・・・新手的鬼ごっこかな？』

そう呑気な事を考えていたらパラグライダーの少女が自転車の先に  
回り込み、掴まるところに足を引っ掛けて自転車に乗った奴にぶつ  
かり、自転車に乗っていた奴はパラグライダーの少女に抱きつく形  
で自転車から持ち上げられた。

その直後、乗り主をなくした自転車は徐々に速度を落としてー爆  
発した。

パラグライダーと自転車の二人は、今の爆風で体育倉庫の中に転  
がって行った。

『マジかよ・・・!!』

爆発の音・威力・爆発の仕方等の情報から察するに、今の爆発はC  
4爆弾が使われていたということが金助には分かった。

しかも、自動車くらいなら余裕で吹き飛ばせるほどの量を。

『とにかく体育倉庫に向うか』

金助はひとつ飛びでフェンスを乗り越えて、体育倉庫に向かって走  
り出した。

だが、それは背後からの銃撃に止められた。

金助が弾が跳んできた方を見ると、そこにはスピーカーとイスラエ  
ルのIMI社の傑作銃のUZIが取り付けられた、セグウェイが1  
0台止まっていた。

『なんでセグウェイなんかUZIが付いてるんだよ!!』

金助は近くの太い木の陰に隠れた。

セグウェイは、3台だけ残して残りの7台は体育倉庫の方に向かっ  
て行った。

『一体どうなってやがるんだよ……!!』

金助はキレ気味の声でそう言いながら、右脇のシヨルダーホルスタ  
ーからベレッタを抜いた。

セグウェイと金助の距離は、およそ8m。

『喰らえ!』

金助は少しだけ木陰から身を出して、セグウェイに向かって残弾が  
無くなるまで発砲した。

あまり良い射撃体勢ではなかったが、綺麗に全弾命中し、2台は壊  
れていた。

『一つ残ったか……』

ベレッタのマガジンを代えて、金助はまた木から身を出して最後の  
セグウェイに数発発砲した。

撃った弾の内一発がUZIに当たり、セグウェイは行動不能になっ  
た。

『無駄に手間掛けさせやがって……』

セグウェイの破壊を確認し、直ぐに金助は体育倉庫に向かった。

ちょうどその時、体育倉庫の方から少年が一人出てきた。

『なっ……!!』

金助はその少年の顔を見て、目を丸くしたまま固まった。

その少年のことを、金助は知っていた。

『キンジ……』

その少年――遠山 キンジ（とおやま きんじ）は、金助の従兄だ  
からだ。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1430y/>

---

緋弾のエリア～神殺し伝説～

2011年11月2日02時05分発行